

# GAP（農業生産工程管理） をめぐる情勢

---

令和7年7月  
農林水産省  
農産局農業環境対策課

# 目次

## ① 必要性

- ・GAP（ギャップ）とは・・ 2
- ・GAPへの取り組み方・・ 3
- ・GAPが農業経営に与える効果・・ 5
- ・持続可能な社会への関心の高まり・・ 6
- ・GAPの取組を通じたSDGsへの貢献・・ 7
- ・国際イベントとGAP・・ 8

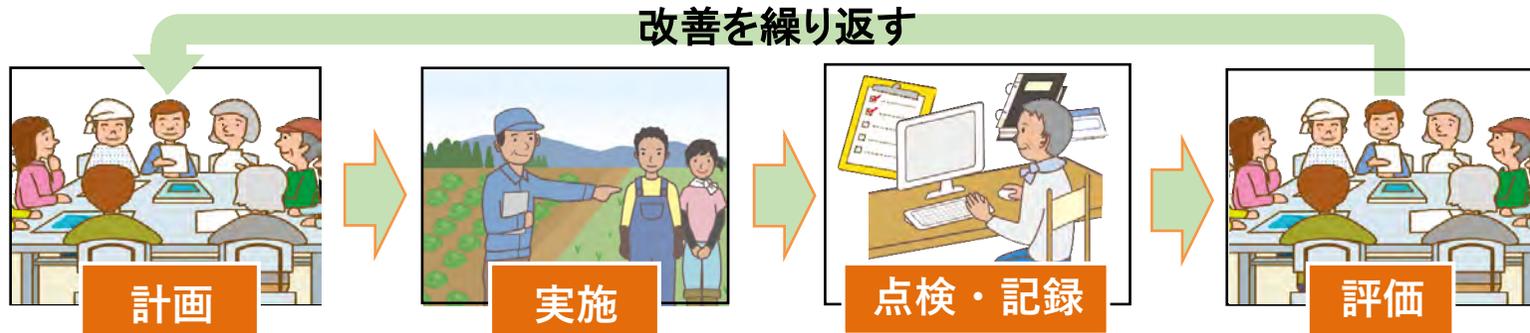
## ② 取組状況

- ・GAP認証の普及状況・・ 9
- ・（参考）個別認証と団体認証の違い・・ 10
- ・都道府県等におけるGAP指導員の状況と国際水準GAPを実施する農業者・・・・・・・・・・・・ 11
- ・未来につながる持続可能な農業推進コンクール（GAP部門）表彰者の概要・・・・・・・・・・ 12

## ③ 推進・支援

- ・GAP推進の目標・・ 14
- ・我が国における国際水準GAPの推進方策の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ・国際水準GAPガイドラインの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- ・GAP認証農産物に関心を有する実需者（GAPパートナー）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- ・GAPの拡大推進（関連予算）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

- GAP (Good Agricultural Practices : 農業生産工程管理) は、農業生産の各工程の**実施、記録、点検及び評価**を行うことによる**持続的な改善活動**のこと。
- 農林水産省では、「**食品安全**」、「**環境保全**」、「**労働安全**」、「**人権保護**」、「**農場経営管理**」の5分野を含むGAPを**国際水準GAP**と呼称し、ガイドラインを策定し普及を推進している。



## 国際水準GAPの5分野

### 食品安全

(取組事項の例)

- ・食品安全に係るリスク管理
- ・使用する水のリスク管理
- ・異物混入の防止
- ・農薬の適正使用と記録
- ・農産物取扱施設の衛生管理



集出荷作業における服装(マスク、布巾・手袋等の着用)のルール化

### 環境保全

(取組事項の例)

- ・環境負荷に係るリスク管理
- ・温室効果ガス削減の取組
- ・土づくりや施肥設計を通じた土壌管理
- ・総合的病害虫・雑草管理(IPM)の実施
- ・廃棄物の適正処理・利用



農業空容器は分別して処理

### 労働安全

(取組事項の例)

- ・労働安全に係るリスク管理
- ・機械・設備の点検・整備
- ・作業安全用の保護具の着用
- ・農場内の整理整頓、清掃
- ・農薬の適切な取扱と保管



危険な作業はスイッチを止めてから行う(巻き込まれ防止)

### 人権保護

(取組事項の例)

- ・労働者への労働条件の提示と遵守
- ・家族間の十分な話し合いに基づく家族経営の実施
- ・技能実習生等の受入に係る環境整備

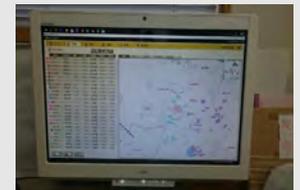


掲示物には外国人技能実習生の母国語を併記

### 農場経営管理

(取組事項の例)

- ・基本情報の整理
- ・業務毎の責任者の配置と農場ルールの策定
- ・トレーサビリティの確保と記録の作成・保存
- ・クレームへの対応手順の策定



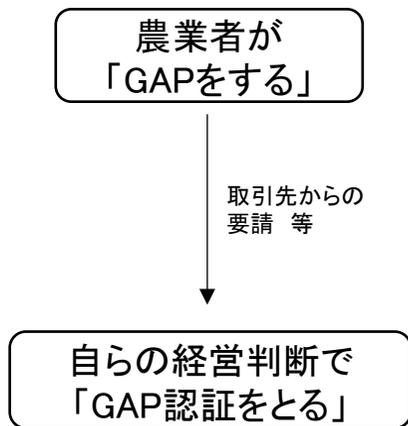
ほ場等の情報を地図とともにパソコンで整理

- GAPの取組には、「GAPをする」、「GAP認証をとる」の各段階がある。
- 「GAPをする」とは、認証取得の有無に関係なく、農業者がGAPを自ら実施することである。
- JAグループでは、持続可能な農業経営の確立に向けて、将来的に、ほぼ全ての生産組織で「よりよい営農活動」を取組むことを目指している。

## 「GAPをする」と「GAP認証をとる」の違い

GAPをする	農業者がGAPを自ら実施すること。認証取得の有無は関係ない。
GAP認証をとる	GAP認証(※)を受けること。これにより、GAPを実施していることが客観的に証明される。

※ ここでは、ISO/IEC 17065の基準に適合していることを認定された認証機関の審査により、GAPの実施が確認された証明を指す。日本では、GLOBAL G.A.P.、ASIAGAP、JGAPの3種類の認証が普及している。



## GAPをする：JAグループ「よりよい営農活動実践運動（GAP）」

### 【目標】

JAグループのほぼ全ての生産組織で「よりよい営農活動(※)」に取り組むことを目指す  
 ⇒運動期間：4年(2024年度～2027年度)  
 ※JAグループでは、営農現場におけるリスク管理(法令遵守を含む)の取り組みであることをイメージできるように「よりよい営農活動」という用語を用いている。

### 【取組方策】

#### ①「よりよい営農活動」

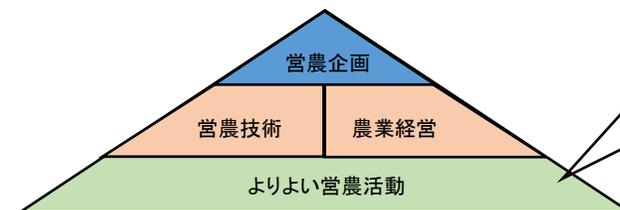
- ・生産者：「よりよい営農活動」を実践
- ・JA：「GAP手法を活用した営農指導」の実践
- ・県域は、県版GAPの実態に応じて、県域の取り組み方針を策定
- ・全国連は、全国支援事業を通じて県域による推進の支援

#### ②GAP認証取得をとる

- ・販路拡大等に向けた選択肢として、各JAの判断

#### ③人材育成

- ・JA段階における「よりよい営農活動」担当者の設置、GAP指導員資格の取得推進
- ・県域において「よりよい営農活動」推進インストラクターの設置
- ・全国支援事業を通じて、JA段階・県域の人材育成を支援



営農指導事業の目的は、「営農企画」「営農技術」「農業経営」の3分野を適切にサポートすることにより、組合員の農業所得ひいては地域農業振興に寄与する活動を行うこと。  
 この土台として、「よりよい営農活動(GAP)」を位置づける。

- 認証の取得・維持には費用が発生するため、認証を取得するかどうかは農業者の経営判断となる。
- 日本で普及しているGAP認証には、JGAP、ASIAGAP、GLOBALG.A.P.の3種類がある。

## 日本で普及しているGAP認証

	GLOBALG.A.P.	ASIAGAP <sup>注5</sup>	JGAP
名称			
運営主体	フードプラス (ドイツ)	一般財団法人 日本GAP協会 (日本)	一般財団法人 日本GAP協会 (日本)
産物の カテゴリ	青果物	青果物	青果物
	花きと鑑賞用植物	—	—
	穀物	穀物	穀物
	茶	茶	茶
	ホップ	(注1)	(注1)
その他	植物の苗	(注2)	(注2)
	水産養殖	—	—
GFSI承認 <sup>注3</sup>	青果物・水産養殖 のうち一部 <sup>注4</sup>	青果物・穀物・茶	—
備考	いずれのGAP認証も、取組分野として国際水準GAPの5分野を含む。		

注1: 青果物の対象品目としてホップが含まれる。

注2: 青果物、穀物、茶の対象品目として、各々の種苗が含まれる。

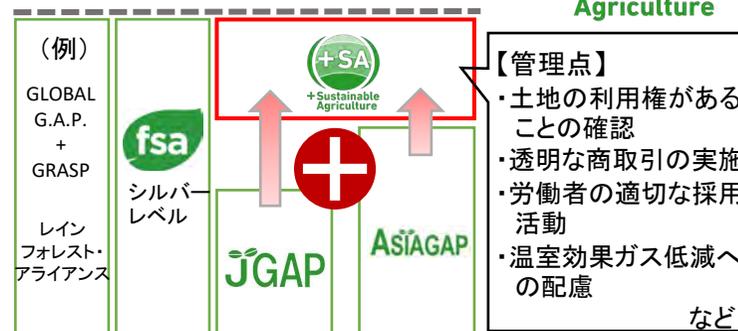
注3: 食品関連のグローバル企業で構成される組織「ザ・コンシューマー・グッズ・フォーラム(CGF)」の傘下の組織であるGFSI(世界食品安全イニシアティブ)が、食品安全の向上と消費者の信頼確保を目的に、食品安全管理規格の承認等を行っている。

注4: GLOBALG.A.P.の青果物にはSmartとGFSの2つの規格が存在するが、GFSIに承認されているのはGFS規格のみである。穀物と茶については、市場からの要請が少ないため、GFSI承認の申請は行われていない。

注5: (一財)日本GAP協会が運営主体となっているASIAGAPは2028年に終了。

## JGAP/ASIAGAPの持続可能性を 世界基準とするアドオン規格「+SA」

JGAP/ASIAGAPに加えて「+SA」を実施することにより、FSAのシルバーレベルに相当！世界レベルの持続可能な農業を実施していることの証明に！



### 【内容】

- ・項目数はJGAPで10項目、ASIAGAPで14項目
- ・JGAP/ASIAGAPの両者に対応する規格であり、どちらの認証取得農場でも対応可能
- ・審査はJGAP、ASIAGAP審査と同時に実施

※FSA(Farm Sustainability Assessment): SAI Platformが提供する持続可能な農業の実践をテーマとした評価システム。他規格とのベンチマーキングの仕組みを有し、その際の適合度は、ゴールド、シルバー、ブロンズの3段階で示される。

※「+SA」が対応するのは、JGAP、ASIAGAPともに青果物、穀物、茶

➤ GAPに取り組むことで、「食品安全」、「環境保全」、「労働安全」、「人権保護」、「農場経営管理」の各分野において改善効果がある。

## 認証取得経営体へのアンケート調査結果

### 【認証取得に取り組んだ効果の例】

食品安全はもちろん、作業の安全、無駄な経費の削減など様々な効果を感じている。【個別認証・野菜】

1年に1回、農場の見直しのきっかけにしている。【個別認証・穀物】

他者からの審査を受けることにより経営上の緊張感、責任感が醸成されているのが良い。【団体認証・穀物】

経営上のモチベーションが上がる。従業員への教育がしやすい。【個別認証・果樹】

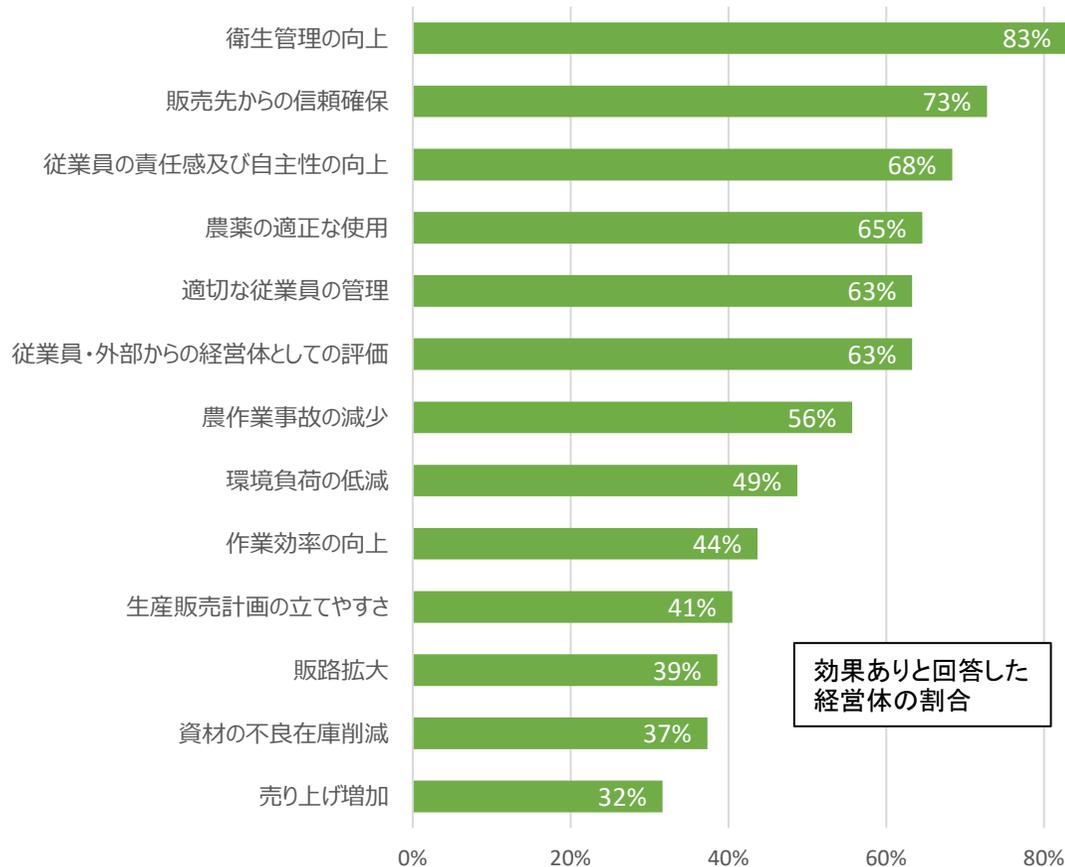
営農管理に必要な帳票に対する意識の維持向上に役立っている。【個別認証・野菜】

生産行程管理の見える化、働く人の労務管理及び責任感向上に効果がある。【個別認証・きのこ】

GAP認証取得農場が少ない品目であるため、新規販売先の開拓の効果よりも既存販売先の取引継続に効果ありと判断している。（他の農場が弊社の販売先と競合しにくい）【個別認証・果樹】

販売先からの信頼が上がり販売先の心配がなくなった。【個別認証・野菜】

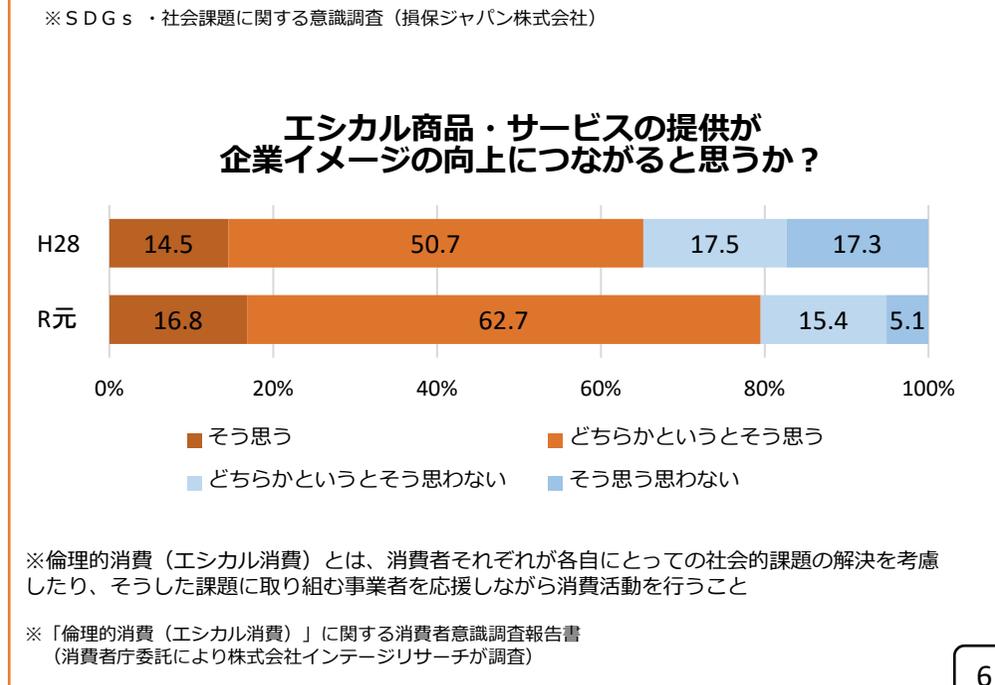
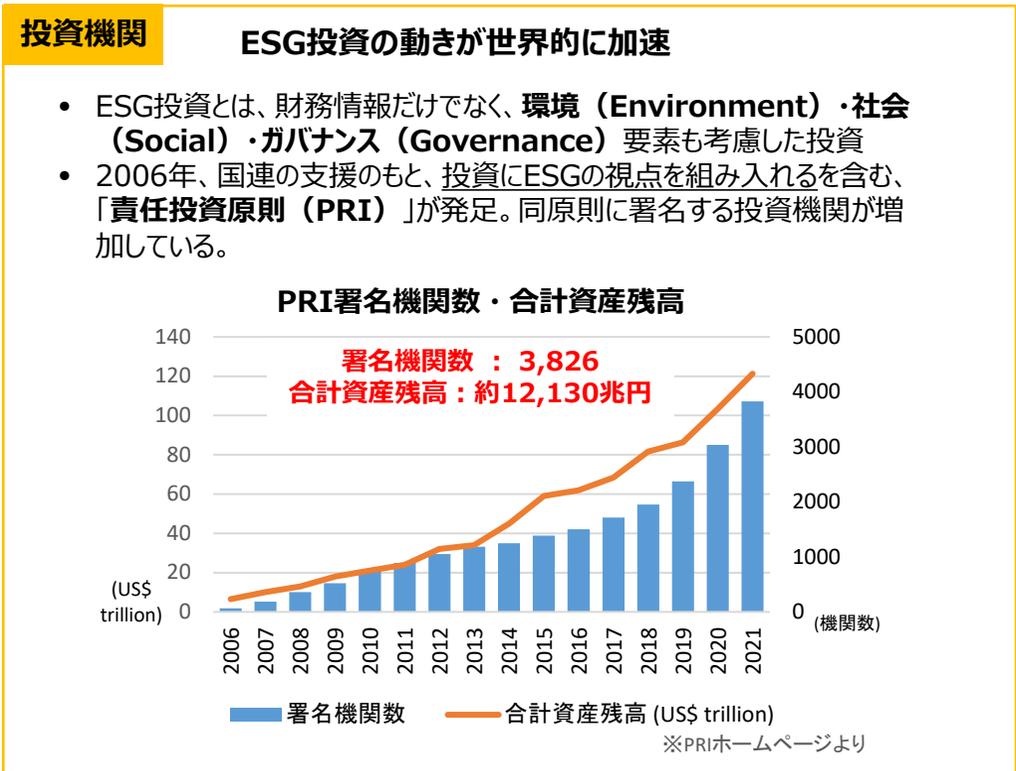
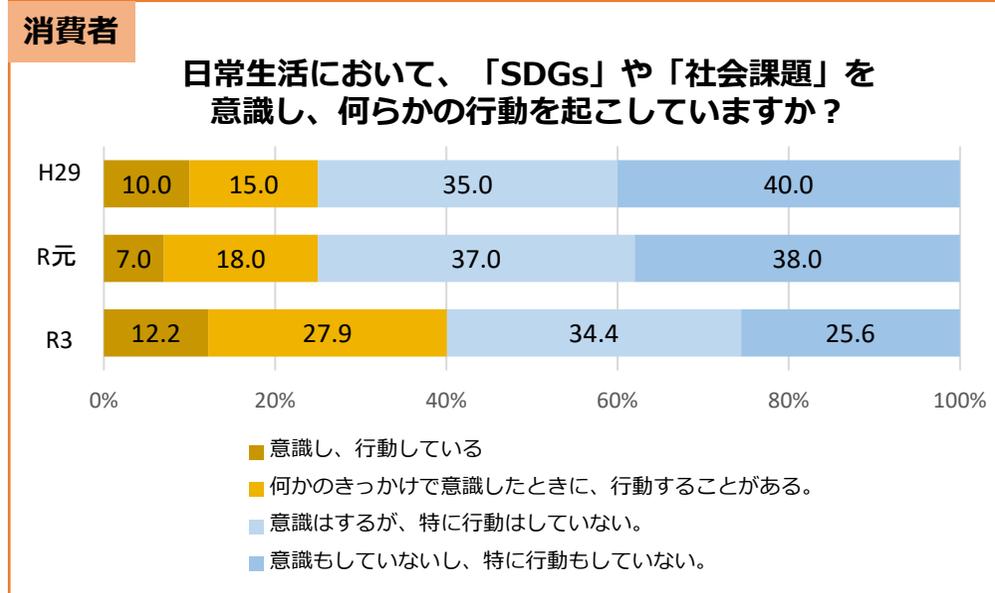
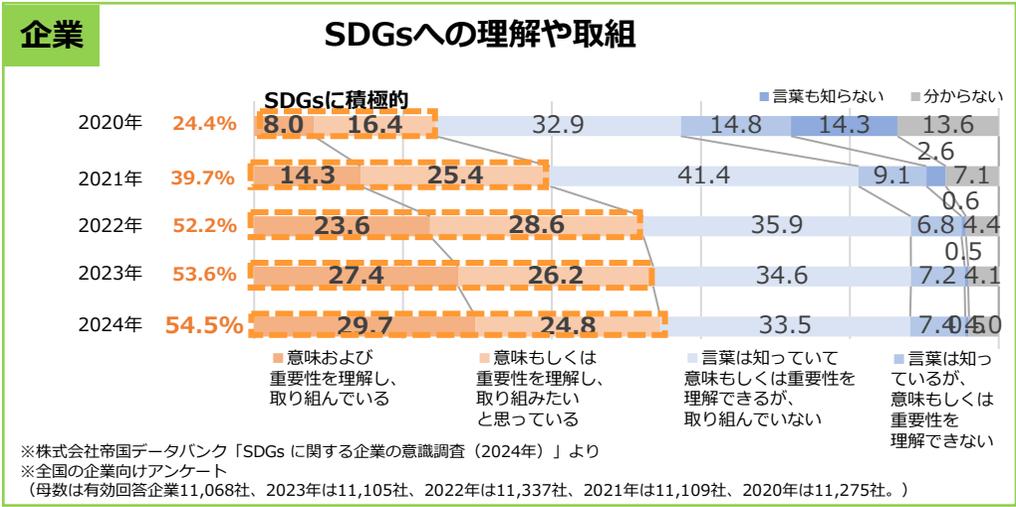
### 【GAP導入による効果】



効果ありと回答した経営体の割合

※ 令和6年度にGAP認証を取得していた経営体を対象に農林水産省が（一財）日本GAP協会、（一社）GAP普及推進機構を通じて行ったアンケート調査（回答数158）の結果から一部を抜粋

※ 3割以上の経営体が「効果あり」「やや効果あり」と回答した項目を掲載



# GAPの取組を通じたSDGsへの貢献

①必要性

国際水準GAP の5分野	持続可能な開発目標（SDGs）とターゲット
<p>食品安全</p>	<p>2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する（2.1、2.4） 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する（3.9） 12. 持続可能な生産消費形態を確保する（12.4）</p> 
<p>労働安全</p>	<p>2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する（2.4） 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する（3.6） 8. 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する（8.5、8.8）</p> 
<p>環境保全</p>	<p>2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する（2.4） 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する（3.9） 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する（6.3、6.6） 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する（7.2、7.3） 9. 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る（9.4） 12. 持続可能な生産消費形態を確保する（12.2、12.4、12.5） 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる（13.1、13.3） 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する（14.1） 15. 劣化した土地を回復し、土地劣化に荷担しない世界の達成に尽力（15.1、15.3、15.8）</p> 
<p>人権保護</p>	<p>2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する（2.4） 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う（5.1、5.5） 8. 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する（8.5、8.7、8.8）</p> 
<p>農場経営管理</p>	<p>2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する（2.4） 4. すべての人々への、包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する（4.4） 8. 包括的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する（8.5、8.8） 12. 持続可能な生産消費形態を確保する（12.8） 13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる（13.1） 17. 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する（17.17）</p> 

# 国際イベントとGAP

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」）の選手村等で使用する食材の調達、持続可能性に配慮した調達基準が採用され、農産物の調達にはGAP認証（GLOBALG.A.P.、ASIAGAP及びJGAP等）や都道府県GAP等が要件となった。
- 選手村メインダイニング等では、調達基準を満たした食材の割合が野菜で100%、米で82%を達成。
- 2025年～2027年にかけて国内で開催される国際イベントにおいても、東京2020大会の調達基準と同様、主としてGAP認証農産物が調達基準の要件への適合度が高い農産物として位置づけられている。

## 調達基準（概要）

### 対象

サプライヤー等注1注2が調達する農産物の**生鮮食品及び農産物を主要とする加工食品**とする。

注1：大版・関西万博に貸しては、「サプライヤー等」を「博覧会協会、ライセンサー及びパビリオン運営主体」に読み替える。  
注2：ライセンスグッズに関しては、「サプライヤー等」をライセンサーに読み替える。

### 要件

以下の点について、生産国の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること

1. 食品安全の確保
2. 周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動の確保
3. 作業者の労働安全の確保
4. 作業者の人権保護の確保

## 要件への適合度が高い農産物

1. **GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP**、又は博覧会協会が認める認証スキームによる認証を受けて生産された農産物
2. 1の農産物以外を必要とする場合は、**国際水準GAPガイドラインに準拠したGAP**に基づき生産され、**公的機関による第三者の確認**を受けて生産された農産物
3. 1、2の農産物以外を必要とする場合は、**環境負荷の低減に取り組むことについて公的機関による第三者の確認**を受けて生産された農産物（**有機農業により生産された農産物も認める。**）

※それぞれ、「持続可能性に配慮した調達コード（第2版）（令和5年7月31日公表）」、「持続可能性に配慮した調達コード（令和6年9月公表）」、「持続可能性に配慮した調達コード（令和6年1月公表）」を基に農林水産省農産局農業環境対策課GAP推進グループが作成。

## 2021年 東京2020オリンピック・ パラリンピック競技大会

開催場所 東京都新宿区ほか  
開催期間 2021年7月23日～9月5日



メインダイニングで  
食事をする選手

選手村食堂におけるPRポスター掲示  
～GLOBALG.A.P.  
取得の福島岩瀬農  
業高校～



## 2025年 大阪・関西万博

開催場所 大阪府大阪市  
開催期間 2025年4月13日  
～10月13日  
想定来場者数 2,820万人



## 2026年 第20回アジア競技大会



開催場所 愛知県名古屋市ほか  
開催期間 2026年9月19日  
～10月4日

## 2026年 第5回アジアパラ競技大会



開催場所 愛知県名古屋市ほか  
開催期間 2026年10月18日  
～10月24日

## 2027年 国際園芸博覧会

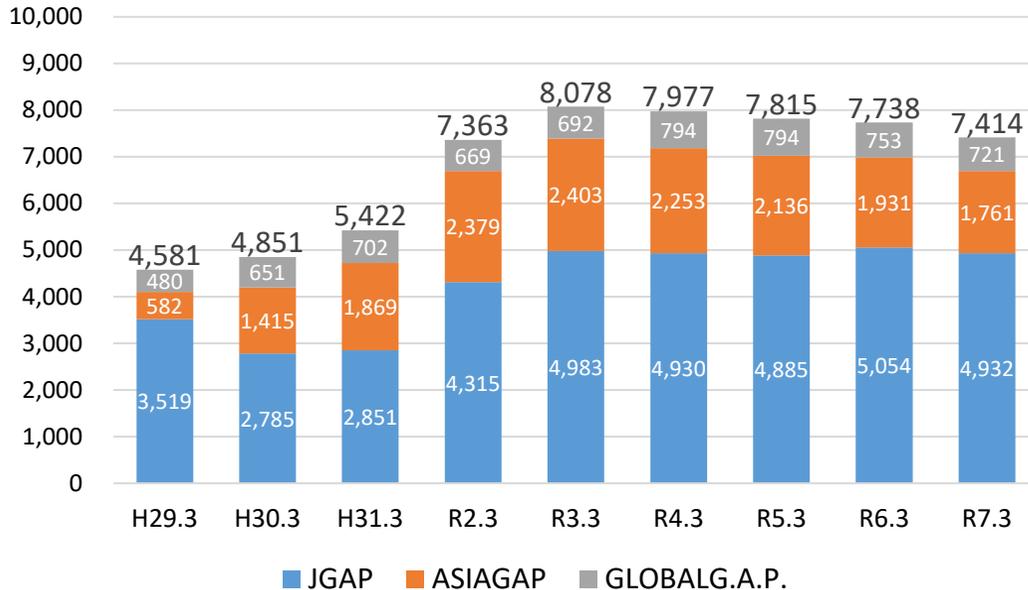
開催場所 神奈川県横浜市  
開催期間 2027年3月19日  
～9月26日  
想定有料来場者数 1,000万人以上



2027年国際園芸博覧会公式ロゴマーク ©Expo2027

- 国内における農畜産業のGAP認証取得経営体数は、JGAP、ASIAGAP、GLOBALG.A.P.で合計7,414経営体（令和7年3月末時点）
- 認証には、個々の経営体が認証を取得する個別認証に加え、複数の経営体により構成された団体等が認証を取得する団体認証がある。

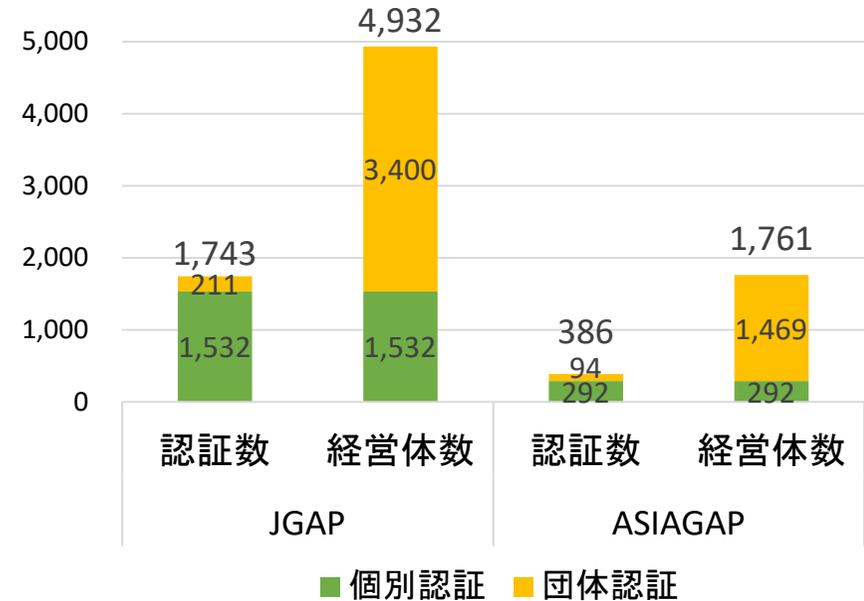
## GAP認証取得状況（経営体数）



農林水産省農業環境対策課調べ

- ※ 青果物、穀物、茶、畜産に係る認証経営体数（国内のみ）
- ※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上。
- ※ GLOBALG.A.P.の経営体数について、H30.3及びR3.3～R6.3の各年度の数は、当該12月末時点の数値

## JGAP・ASIAGAPにおける個別認証・団体認証の内訳



農林水産省農業環境対策課調べ

- ※ 令和7年3月時点
- ※ 青果物、穀物、茶、畜産に係る認証数及び認証経営体数（国内のみ）
- ※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上

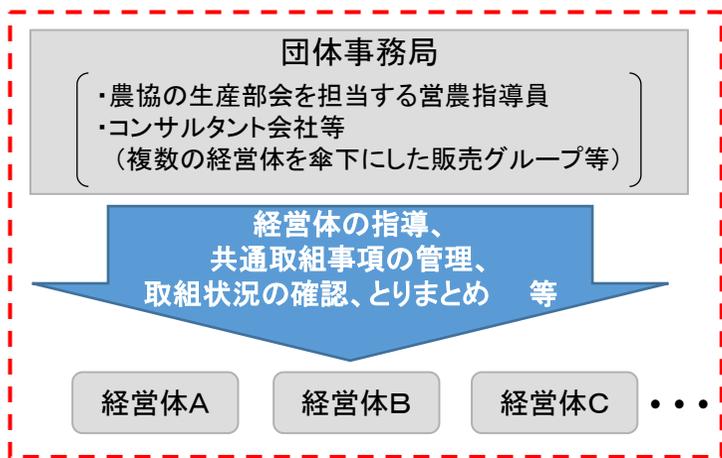
- 団体認証では、個別認証で求められる取組の一部が団体の取組として共通化され、個々の負担が軽減等のメリットがある。
- 一方、「構成員全員の合意形成を図ることが難しい」等の課題がある。これらの課題を解決し、団体認証取得を推進するため、令和6年度に有識者からなる「団体運営のための手引き作成検討会」を開催。団体認証取得に向けた手引きを令和7年4月に公表。

## 個別認証と団体認証の仕組み

### 個別認証 個々の経営体

経営体A   経営体B   経営体C   ...

### 団体認証 複数の経営体により構成された団体



## 団体認証取得推進に向けて

- ・団体認証取得推進に向け、令和6年度に有識者からなる「団体運営のための手引き作成検討会」を開催
- ・とりまとめた手引きを農水省HPにて公開



## 団体認証のメリット

- ・個別認証と比較して、一人一人の事務負担や審査費用、農薬残留分析費用等の負担が軽減
- ・工程管理の統一により、団体で出荷する農産物の信頼性向上
- ・SDGsへの貢献を通じて、付加価値向上による販路獲得を目指すことができる 等

## 審査費用

- ・団体認証の場合、審査は全員ではなく抽出<sup>(※1)</sup>で行われる。
  - ・抽出数は構成員数<sup>(※2)</sup>の平方根の数字(小数点以下切上げ)による。
  - ・このほか、団体事務局・集出荷施設等への審査も行われる。
- (例) 50経営体の場合  $\sqrt{50} \rightarrow 8$ 経営体(件)

※1: 構成員数の平方根の1/2以上の数を対象に抜き打ち検査を行う場合がある。

※2: 団体のうち、団体認証の取得対象となる経営体

### <50経営体でJGAPを取得する場合の試算>

※個別認証のJGAP認証費用を15万円とした場合

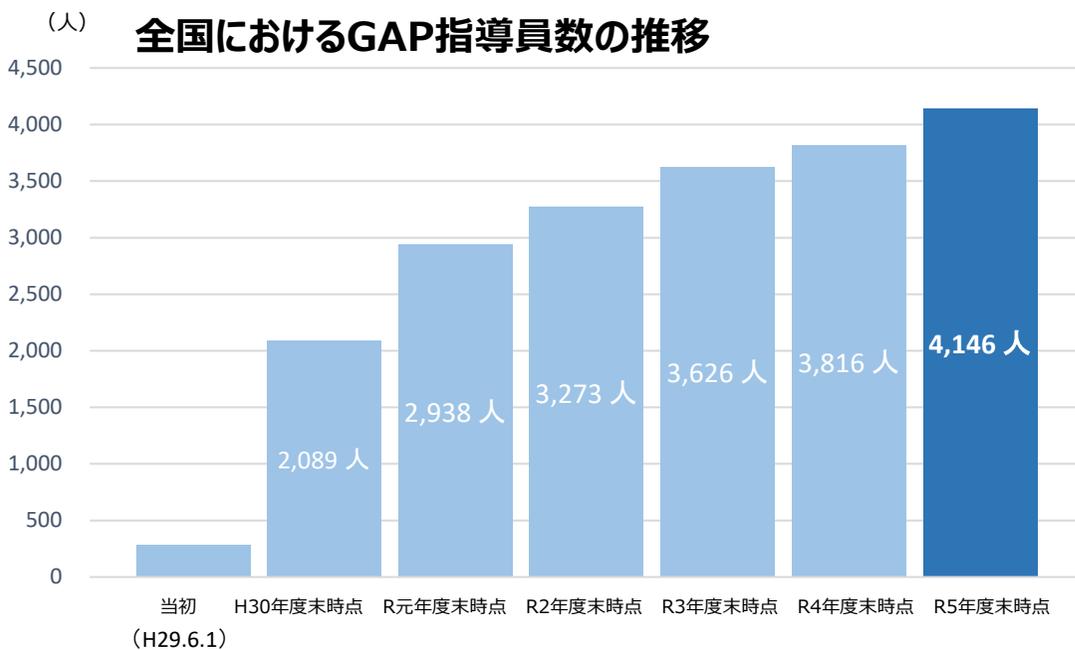
**個別認証**   審査件数: 50件  
審査費用: 50件 × 15万円 = **750万円**(※3)

**団体認証**   審査件数:  $\sqrt{50}$ 経営体 + 団体事務局等2件 = 10件  
審査費用: 10件 × 15万円 = **150万円**(※3、※4)

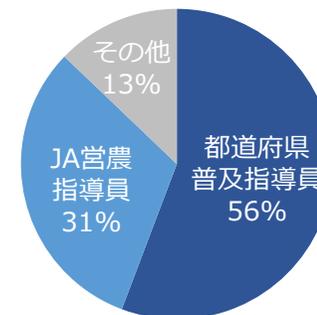
※3: 別途審査員旅費がかかる。

※4: その他、内部検査員・監査員の養成費、検査の外注費用がかかる場合がある。

- 都道府県では、農業者へのGAPの普及に関して、農林水産省が策定した国際水準GAPガイドラインや独自のGAP基準（都道府県GAP）に基づく指導や、GAP認証取得を目指した指導等を行っている。農林水産省では、都道府県等の指導員育成や指導活動を支援。
- 令和5年度末時点において、高い水準で指導できると推定される指導員数（指導に必要な知識を習得するための研修を受講し、3件以上の指導実績がある者の数）は全国で4,146人。
- GAP認証取得者に加え、都道府県による指導等を受け国際水準GAPを実施する農業者は、令和5年度で4万4,647経営体となっており、増加傾向にある。



### 指導員の内訳



### 国際水準GAPを実施する農業者数

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3
国際水準GAPを実施する経営体数※1	17,388	24,653	33,556	44,647
うち認証取得経営体数※2	8,078	7,977	7,815	7,738

※ 農林水産省農業環境対策課調べ  
(令和5年度末時点、都道府県から聞き取り)

※1 都道府県による指導等を受け国際水準GAPを実施する農業者数を集計  
※2 関係団体に対する聞き取り数値

## 農林水産大臣賞

## 長野八ヶ岳農業協同組合

(長野県)

生産者が取り組みやすい、  
持続可能なGAPの支援体制の構築

認証	GLOBALG.A.P.	認証品目	結球レタス、非結球レタス(サニーレタス、グリーンリーフ)
----	--------------	------	------------------------------

### <取組と効果>

- 持続可能な産地を目指す上では全ての生産者がGAPに取り組むことが必要と考え、2020東京オリパラへの供給による産地のアピール等に繋がる等の理由から一部構成員でJGAP認証を取得。その後、大手取引先への供給に必須条件となったGLOBALG.A.P.認証に移行。
- 内部監査員によって検査内容に差が出ないよう、事前に確認事項等について目合わせを実施。GAPに関わる職員の増加を図り、一部の職員に負担がかからないよう**JA全体でサポートを行う体制を確立**。
- JAが独自で作成した「GLOBALG.A.P.日誌」とGLOBALG.A.P.用にカスタマイズされた営農支援プラットフォーム『あい作』により、各構成員が自ら営農記録を行う仕組みを構築。記録・確認の効率化により、**構成員・事務局ともに事務作業の負担が軽減**。
- GISシステムの導入によりほ場管理履歴をデータで一元管理することで**ほ場確認・情報共有等を簡素化**。
- 構成員の意向確認を行い慎重にGLOBALG.A.P.へ移行するなど、JAと生産者の着実な信頼関係を構築。**構成員数は2年間で29名(R4)→41名(R6)と1.4倍に増加**。また、認証品の安定出荷・品質面が評価され、取引先からの生産者MVPを受賞。販路を拡大し合計の**取引数量が5,319t(R5)→6,812t(R6)と28%増加**。
- 「長野県GAPフォーラム」において、県内の農業者、市町村、JA担当者等向け取組事例を発表。



「あい作」による記録方法  
(農業散布)



GISシステムの画面の様子



取引先からの表彰



長野県GAPフォーラムでの  
事例報告の様子

## 農産局長賞

## 株式会社国太郎

(群馬県)

国太郎流、働く人に優しい農業の実現

認証	JGAP	認証品目	こまつな
----	------	------	------

### <取組と効果>

- 2度の自然災害に見舞われたことで、ほ場や施設のリスク管理の重要性を痛感。今後の農業経営においてGAPは必須になると思い、準備を開始。
- R5から脱炭素型農業の試みとしてバイオ炭施用による炭素貯留に取り組み、環境負荷低減、コスト削減を実現。R5年度の取組では**CO2排出量を480kg削減**。
- 従業員からの提案による作業場改善により、**従業員の主体性と協調性を醸成**。「従業員目線」の提案・合意の形成を経て、**従業員同士の連帯感を創出**。
- 栽培から労務までを一括して管理できる**オリジナルソフトを会計事務所と共同で作成**。自社の作業体系に合わせた入力フォームを作成し、栽培の記録、肥料・農薬の使用履歴、在庫管理、収穫量、雇用管理を一括して実施。
- 同一ハウスで収穫から次作の播種までを一日で完結させる効率的な作業体系「**国太郎農法**」により、**ハウス利用年間9回転(地域慣行栽培では年間6~7回転)**を可能とし、限られた施設を有効活用。
- 年齢による偏見を持たない「**脱エイジズム**」実現のため、作業工程の分業化、作業内容の単純化及びマニュアル化を行う。従業員は20~80代と幅広く、65歳以上が半数以上。高齢化による**労働力不足の解消**と、「**社会とつながりたい**」という**高齢者のニーズに対応**。



従業員による作業場改善  
(疲れにくい高さにした自作の  
調製作業台及びはめ込み式の雨戸)



国太郎オリジナルソフト  
入力フォーム



「国太郎農法」による  
収穫及び除草・残渣処理

調製作業(平置な量の動き)の流れ

工程	作業内容
1-1	作業開始(ハウス内)の準備、作業開始
1-2	調製作業(平置)の準備、作業開始
1-3	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-4	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-5	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-6	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-7	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-8	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-9	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-10	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-11	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-12	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-13	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-14	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-15	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-16	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-17	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-18	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-19	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-20	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-21	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-22	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-23	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-24	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-25	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-26	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-27	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-28	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-29	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-30	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-31	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-32	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-33	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-34	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-35	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-36	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-37	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-38	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-39	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-40	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-41	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-42	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-43	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-44	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-45	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-46	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-47	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-48	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-49	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)
1-50	調製作業(平置)の準備、作業開始(作業開始後)

調製作業のマニュアル

## 農産局長賞

## 南郷トマト生産組合

(福島県)

100年続く産地を目指して！産地まるごとGAP認証！

認証	JGAP	認証品目	トマト
----	------	------	-----

### <取組と効果>

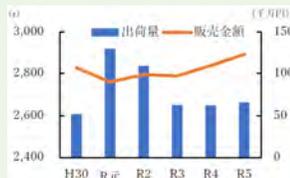
- トマトの生産から出荷までのルールを統一し、100年続く産地を目指すために、令和元年からJGAP団体認証への取組を開始。令和6年8月に**組合員全戸（102戸）**での認証取得を達成。
- 生産者を65歳以下、新規就農者及びその他の3つに分け、生産組合役員と併せて65歳以下の生産者に対し、先行して認証取得を推進。先行して取り組んだ生産者は、新たに認証取得を目指す生産者に対して助言を行うとともに労働環境整備について支援。
- **労働安全に関するリスク評価は年1回各農場で実施。**他の生産者にも共通するリスクがあった場合には、内部監査や研修会等において他の生産者にも共有。効率的に生産組合全体でリスクに対する意識改善を図る。
- 効果的な利用による化学農薬の使用回数削減を図り、**生産者の約40%で農薬費が削減。**
- 団体の方針・目的を定めたことで、生産組合の目指すシーズンを通じた安定出荷の重要性が全生産者に周知されている。それにより生産者の意識が向上し、栽培技術に係る新たな講習会の開催や、新品種の導入が進んだ結果、猛暑による厳しい生産環境が続くここ数年の間でも**安定した高単収を維持。**
- JGAP団体認証取得により、経営内容の見える化が進み、就農後も安定した出荷が見込め、経営の早期安定が可能であることを就農希望者に対してアピールすることが可能に。**新規就農者の確保**に貢献。



新規取得者を対象とした研修会の様子



野鳥の侵入対策を施した南郷トマト選果場



南郷トマトを使用した料理 (ふくしま。GAPフェア)

## 農産局長賞

## 有限会社山波農場

(新潟県)

「人づくり」という強み  
— GAPを活用した人材育成・組織改革で、選ばれる農場へ —

認証	JGAP	認証品目	水稻
----	------	------	----

### <取組と効果>

- 組織で責任を持つボトムアップ型の体制にするため、また、農業が他産業と肩を並べるためには当たり前のことを当たり前にできる会社の仕組みが必要と考え、JGAPを活用した人材育成・組織改革を開始。H23にJGAP認証を取得、以降継続。
- 企業として最も重要と考える労働安全について、リスクアセスメントを使い、**社員自身が主体的に労働安全（労働災害リスク低減）**を考え、業務手法に組み込み、実行。農業管理や労働安全について掲示物での注意喚起を行う。
- **作業別責任者制度**を考案・実行することにより、各作業工程に社員が責任を持ち、自ら効率化を考えて計画立案。**10a当たりの水稻作業時間は18.9時間（H22）→15.3時間（R6）に19%短縮。**
- ほ場整備の結果、**一区画あたりの平均面積が14a（H21）→27a（R6）の1.9倍**となり、作業効率を改善。
- JGAPを商品の販売などの対外的なツールではなく、会社の改善・体制強化のツールとして利用しているが、結果的に商品の品質向上にも寄与。
- 改善の結果、運営体制が整備された会社は品質の良い商品を生産できるとみなされ、**香港への輸出が8t（R3）→70t（R6）となり年々増加。**
- 新規就農者や若手普及指導員の研修を受け入れることで地域の**若手農業者の人材育成に貢献**。農業体験イベントの受け入れや年間50回以上の視察、講演に対応。



労働災害リスク低減を組み込んだ作業手順書



農業の適正使用や作業安全に向けた掲示



山波農場が考案した作業別責任者制度



農業体験受け入れの様子

## 食料・農業・農村基本計画(令和7年4月11日閣議決定) (抜粋)

## 第4 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

## 4 農作業安全の確保と農業生産工程管理及び衛生管理

## (2) GAP・HACCPの推進

GAP (Good Agricultural Practices: 農業生産工程管理) は、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動であり、その導入によって、農業経営の改善や効率化につながるものであることから、食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保、人権保護、農場経営管理を含む**国際水準GAPを推進**する必要がある。また、国際水準GAPは、環境負荷低減のクロスコンプライアンスの円滑な導入にもつながるものである。さらに、農産物の輸出に際して、実需者や一部の国からGAP認証を求められる傾向があることから、日本産農産物のブランド力を維持・向上するため、GAP認証の取得を推進する必要がある。国内においても、持続可能性やSDGsなどへの関心の高まりを受け、一部の実需者において、青果物を中心にGAP認証農作物の取扱いを拡大する動きがあるが、更にGAP認証農産物の調達に取り組む実需者等を増加させる必要がある。

また、都道府県におけるGAP指導員数は増加傾向にあるものの、地域での面的なGAP普及を図るため、農業者団体や農協等の組織での取組を拡大する必要がある。(略)

このため、地域で中核的な役割を果たすGAP指導員の育成等を推進するほか、SDGsへの貢献の観点からGAPの情報発信を行うことにより、実需者等のGAPへの理解や活用の促進を図る。あわせて、輸出相手国からのニーズに対応したGAP認証取得の促進を図る。

さらに、地域での面的なGAP普及に向け、団体への認証取得を促すとともに、団体運営の円滑な実施に向けた取組を推進する。(略)

(参考)

農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の一部を改正する法律案に対する附帯決議

(令和4年5月18日 衆議院農林水産委員会) (令和4年4月7日 参議院農林水産委員会)

八 日本産農林水産物・食品のブランド力を維持・向上し、競争力を強化するため、**GAP認証**等、世界の食市場において通用する認証の取得を更に支援するとともに、JAS等の我が国発の規格の国際標準化に向けた取組を推進すること。(略)

## GAPを取り巻く情勢

- 東京オリパラ大会における食材の調達基準としてGAP認証等が採用されたことも契機にGAPの取組が全国で拡大



- SDGs（持続可能な開発目標）への世界的な関心が高まり、環境保全や人権保護等への配慮が重要な行動規範として浸透



- 輸出の拡大等で取引のグローバル化が進展し、取引先は労働者の人権保護に配慮した原料調達を重視
- スマート農業の社会実装が現実のものとなり、農業への情報通信技術の導入が進展
- みどりの食料システム戦略に基づく生産力向上と持続性の両立を目指す施策の推進



今後、農業の**持続可能性を確保**するためには、食品安全、環境保全、労働安全のほか、

- 国際的に求められる**人権保護への配慮**
  - 農場経営管理の実践とデータの利活用**
- を含めた**国際水準GAP**の取組が必要

## 基本方針

- 国際水準GAPに取り組むことで、農業者自らがSDGsに貢献できることを理解し、これを**実需者・消費者**にも広く発信。
- 国際水準GAPガイドラインの策定により我が国共通の取組基準を**明確**にするとともに、都道府県GAPの国際水準への**引上げ**を進め、国と都道府県が**一体**となって国際水準GAPの取組を推進。



## 推進に向けた具体的な取組

### ○国際水準GAPの取組内容の標準化

- 国際水準GAPガイドラインを策定し、我が国共通の取組基準を示す。
  - ガイドラインに基づき取り組むべき標準的な内容を具体的に提示した解説書を策定。
- ➡ 新たにGAPを導入する農業者であっても、戸惑うことなく取組を実践

### ○OGAP指導體制の強化、面的取組の拡大

- コーチング技術やデータ活用に関する知識などを習得するためのGAP指導員向け研修を実施。
  - JA等と連携した団体での取組を推進するため、GAP指導員の指導力向上や団体認証の取得支援を実施。
- ➡ 効果的な指導と面的にまとまった取組により、産地での取組を拡大

### ○OGAPに取り組む農業者のメリットの明確化

- 取組データのデジタル化を促進し、簡易に記録・活用できるアプリなどの導入・利用拡大を図る。
  - 農業者のSDGsや環境負荷低減等への貢献を見える化し、情報発信できる仕組みを構築。
- ➡ 経営改善や取引での利用など取組データの活用の幅が広がる

### ○実需者・消費者のGAPの認知度向上

- SDGsへの貢献を見える化し、実需者との取引や消費者へのアピールに活用。
  - GAPパートナーや関係省庁と連携して消費者に対して「GAP＝農業のSDGs」を情報発信。
- ➡ 実需者や消費者に取組が評価され、事業活動や購買活動につながる

# 国際水準GAPガイドライン（令和4年3月策定）の概要

- 食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理の5分野を満たした国際水準GAPに関する共通の取組基準
- ①青果物、②穀物、③茶、④飼料作物、⑤その他非食用の分類別に作成
- 都道府県に対して、本ガイドラインに基づく国際水準GAPの指導の実施を求めるとともに、都道府県GAPを存続する場合には、令和6年度末を目途に、本ガイドラインに準拠するよう基準の改定を依頼。今後は都道府県向け交付金等を用いた国際水準GAPの本格実施を推進

## ガイドラインにおける取組事項（青果物）の概要【取組数78】

区分	分野	取組事項（【】内は取組事項の数）
I 経営体制全体	農場経営管理	基本情報の整理、農場の方針の策定、農場ルールの決定【4】
	農場経営管理	農場管理に係る記録の作成・保存、知的財産の保護・活用【3】
II 生産体制全体	食品安全	食品安全に関する危害要因分析と対策の実施等【1】
	環境保全	環境に与える負荷に係るリスク評価と対策の実施等【1】
	労働安全	労働安全に関するリスク評価と対策の実施等【1】
	農場経営管理	収穫記録と結びついた出荷記録の作成・保存、クレームや農場ルール違反への対応手順の設定等【5】
III リスク管理	食品安全	食品安全に関する危害要因分析と対策の実施等【1】
	環境保全	環境に与える負荷に係るリスク評価と対策の実施等【1】
	労働安全	労働安全に関するリスク評価と対策の実施等【1】
IV 人的資源	農場経営管理	収穫記録と結びついた出荷記録の作成・保存、クレームや農場ルール違反への対応手順の設定等【5】
	労働安全	保護具の着用・管理、救急箱等の用意、事故対応手順の設定等【3】
	人権保護	労働条件の提示、外国人雇用、家族経営における対応等【5】
	農場経営管理	教育訓練の実施、労災保険の成立手続の実施等【2】

区分	分野	取組事項
V 経営資源	食品安全	喫煙・飲食場所の指定、トイレや手洗い設備の確保、土壌や水に関する危害要因分析、農産物取扱施設の衛生管理等【11】
	環境保全	適正な土壌・排水管理、温室効果ガス排出や廃棄物の削減、周辺住民への配慮等【11】
	労働安全	機械等の点検・整備や適正使用等【4】
	農場経営管理	農場入場時のルールの設定、計量機器の点検・校正等【4】
VI 栽培管理	食品安全	農薬使用計画の策定と計画に基づく農薬の適正使用、堆肥の適切な製造・施用等【11】
	環境保全	IPMの実施、農薬や肥料の適正な使用・施用等【11】
	労働安全	農薬の安全な使用・保管等【3】
	農場経営管理	肥料等の使用記録の作成・保存等【2】
VII 専用項目	食品安全	スプラウト類、きのこ類、りんごの栽培に係る事項【11】

- ・ガイドラインの取組の詳細については、「指導マニュアル」を参照
- ・国際水準GAPに取り組む際のポイントについては、「国際水準GAPガイドライン解説書」を参照

※取組事項の中には複数の分野にまたがるものがあるが、表中では重複して計上している。

- GAP認証農産物を取り扱う意向を有する実需者を「GAPパートナー」として募集し、Webサイトに掲載。
- 実需者・消費者の理解促進・需要喚起のため、実需者と産地の関係構築を推進（令和7年4月末時点：71社）



## 取組の紹介

### 共業生産によるGAPの取組

#### ～株式会社アースコーポレーション～

株式会社アースコーポレーションでは、2005年よりGAPの普及に取り組み、GAP認証農産物のプライベートブランド化に注力。現在では、GAP認証産地が全国に広がり、大手量販店のPBとして販売される。今後は、GAPを活用した農場マネジメントシステムの普及にも注力していく予定。また、産直農産物の信用性を高めるため、地場生産者向けにもGAPを普及。GAP認証生産者専用の売り場を設け、消費者にもGAPの重要性を伝える。



PB化したにんにく産地



**小売業、サービス業、卸売業、食品製造業等の農産物を取り扱う事業者の皆様を幅広く募集します！**

#### GAPパートナーのメリット

- GAP認証農産物の産地情報の入手
- 農林水産省が提供する各種施策に関する情報の入手やセミナーへの任意参加
- 農林水産省のホームページでGAPパートナーを紹介

無料で登録  
できます！



# GAP認証農産物に関心を有する実需者②

## 「顔が見える野菜。」「セブンファーム」の取組 ～株式会社イトーヨーカ堂～

「顔が見える野菜。」

- ・2010年～独自GAPを作成しGAPを普及
- ・GAP認証の生産者を金色のラベルで目立つ形で販売



「セブンファーム」

- ・生産者向けにGAP勉強会を開催し、全拠点でGAPまたは有機JASなどの第三者認証を取得



「顔が見える野菜。」「セブンファーム」2012年GAP普及大賞受賞

## GAP取得に向けた農場指導について ～生活協同組合コープおおいた～

コープおおいたの産直生産者に向けて毎年1回点検活動を実施。全国一律で生協版GAP点検と称して、独自の点検を進めているところ。GAPの取得は販路拡大に繋がるため、認証取得を目指す農場にはアドバイスを行う。

生産者からは「点検を受けることで新たな気づきがあるとともに、他の販売先へ好印象を与えることに繋がっている。」という声。

GAPの必要性を広げつつ、入り口となる生協版GAPを推進することでGAP認証取得農業者の増加を目指す。



産地点検の様子

## 環境に配慮したGAPの取組 ～日本航空株式会社～

日本航空株式会社では、2018年12月より日本発ビジネスクラス・エコノミークラスの機内食にて、ASIAGAP/JGAPの認証を受けた食材を継続的に提供。

また、グループ会社JAL Agriportの自営農場では2019年11月にASIAGAPを取得し、認証野菜を機内食やJAL Agriportのレストラン「DINING PORT 御料鶴」にて提供。



羽田、成田発国際線  
エコノミークラス  
(サラダの提供がない便は除く)  
2024通年提供

## GAP取得商品調達拡大の取組 ～(株)日の出屋内藤商店～

株式会社 日の出屋内藤商店では、2018年（平成30年）から第三者認証GAP取得農産物の取り扱いを開始。GAP指導員資格を取得する事からGAP認証への理解を深め、認証取得農産物の取り扱いを拡大。  
大手コンビニチェーンへ供給される商品に取り扱い農産物を提供。

今後はさらに、調達品目の拡充、年間を通じた安定調達を目指す。



G A P 認証取得農場

「GAPパートナー」の取組やお問い合わせ先等の詳細情報については、GAP情報発信サイト「Goodな農業！GAP-info」に掲載しております。

GAPパートナー



# GAP（農業生産工程管理）拡大の推進

【令和7年度予算概算決定額 111（141）百万円】

## <対策のポイント>

持続可能な農業構造の実現の観点から、**GAP指導員による指導活動**、農業教育機関の認証取得、持続可能性に配慮された農産物を生産する**農業者団体がGAP認証を取得する際に必要な経費**や国際水準GAPガイドライン研修会の開催など、国際水準GAPの推進に向けた取組を支援します。

## <事業目標>

ほぼ全ての国内の産地で国際水準GAPを実施 [令和12年度まで]

### <事業の内容>

### <事業イメージ>

#### 持続的生産強化対策事業

#### 1. GAP拡大推進加速化事業（交付金） 101（121）百万円

##### ① 国際水準GAP普及推進交付金

ア 令和7年度を国際水準GAPの本格実施年とした国際水準GAPの取組拡大に向け、**都道府県での国際水準GAPの普及体制構築**や**GAP指導員による指導活動の推進**を都道府県向け交付金により支援します。

イ 農業教育機関によるGAPの認証の取得及び維持・更新を都道府県向け交付金により支援します。

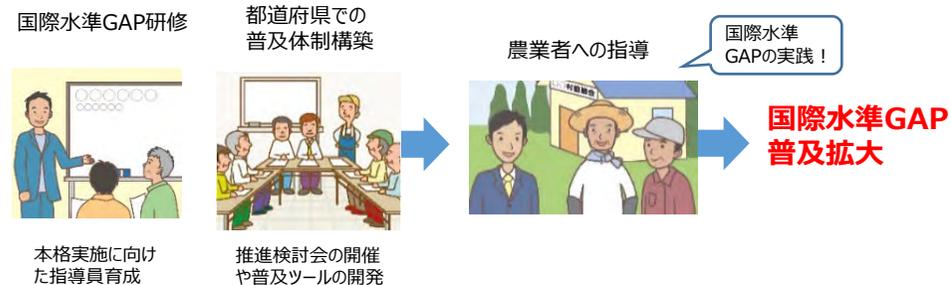
ウ 持続可能性に配慮された農産物を生産する**農業者団体がGAP認証を取得する際に必要な経費**を都道府県向け交付金により支援します。

#### 2. GAP拡大推進加速化事業（補助金） 10（10）百万円

##### ① 国際水準GAPガイドライン普及促進

国際水準GAPガイドラインを普及促進するための研修を全国で開催する取組を支援します。

#### 1.①ア GAP指導員による指導活動の推進



#### 1.①ウ 持続可能性に配慮された農産物生産に取り組む団体への認証取得支援



## <事業の流れ>



## 有機JAS認証、GAP認証取得等支援事業

【令和6年度補正予算額 53百万円】

## &lt;対策のポイント&gt;

国際的に市場規模・取引量が拡大している中、輸出の機会を逸さないよう有機JAS認証及びGAP等認証の取得や商談の実施等、GAP認証審査員を対象とした研修会の開催を支援します。

## &lt;事業目標&gt;

農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

## &lt;事業の内容&gt;

## &lt;事業イメージ&gt;

## 1. 有機JAS認証、GAP認証取得等支援事業

53百万円

有機農畜産物・加工品等やGAP認証農産物の輸出拡大に向け、

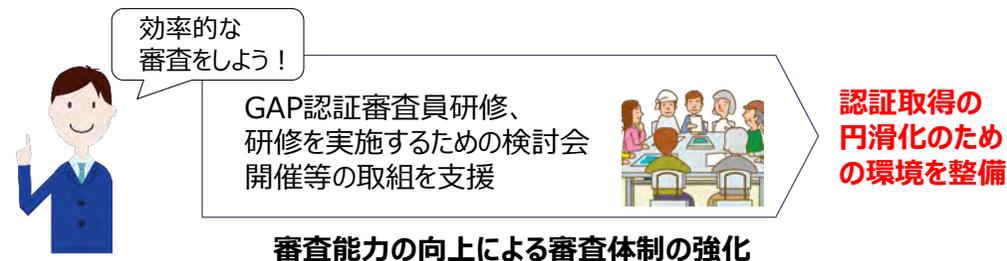
- ① 有機JAS認証の取得、商談の実施等
- ② GAP等認証（GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP、MPS等）の取得、商談の実施
- ③ GAP認証審査員を対象とした研修会の開催

を支援します。

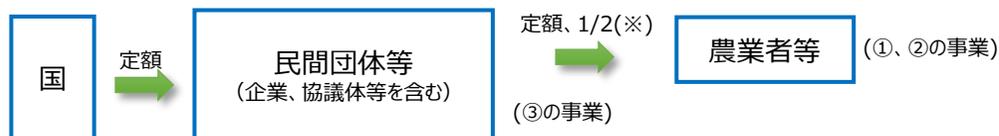
## ①、② 有機JAS認証、GAP等認証取得等支援



## ③ GAP認証審査員を対象とした研修会開催



## &lt;事業の流れ&gt;



※商談及び商品開発に係る経費は定額、認証取得及び機械リースに係る経費は補助率1/2以内で支援（商品開発は①の事業のみ）

【お問い合わせ先】 (①の事業) 農産局農業環境対策課有機農業推進班 (03-6744-2494)  
(②③の事業) 農産局農業環境対策課GAP推進グループ (03-6744-7188)